

平成19年・東京競馬場  
ジャパンカップ<sup>®</sup>  
優勝馬：アドマイヤムーン

© JRA



## 44回 10年・20年・30年前の11月



いまから10年前、平成19年の11月といえば、アドマイヤムーンがジャパンカップに優勝した月。日本では現役馬トレードがあまり一般的ではなく、しかも今まで言うG1クラスの馬となると橋元幸吉氏→上田清次郎氏のダイコーターケくらいしか思い浮かばない。最近では日本→オーストラリアの国際トレードが盛んになりつつあるが、国内での大型トレードはなかなか定着しないようだ。

その前日にはヴァーミリアンがジャパンカッププダートでいまも残るレコードタイムを樹立しなかなか盛り上がったジャパンカップウイークリーだったのだが、その前に少し残念な事態が起きていた。平成19年11月21日付の日刊スポーツから引用しよう。

「今年のキングジョージと凱旋門賞を制し、ジャパンカップ外国招待馬の中では一番の注目を集めていたデイラントーマス(牡4、アイルラン

ド)が、入国に際しての衛生条件をクリアできず、出走を取り止めた。20日夜、JRAから発表された。日本での国際競走で外国馬が検疫問題で出走できなくなつたのは今回がはじめて」  
デイラントーマスが引つかかつたのはEVA(馬ウイルス性動脈炎)の陰性が確認できなかつたためで、アメリカでブリーダーズカップに出走した後の10月27日にEVAWクチンを接種したことが原因とされる。なぜJC出走を控えたそのタイミングで接種したのかは不明だが、いずれにしてもアイルランド・日本間の衛生条件を満たせなかつた。本年の凱旋門賞馬を日本で見られなかつたのは残念だが、デイラントーマスは来日前に出走したB.Cターフが1番人気5着。JCを諦めて向かつた香港ヴァーグが1番人気7着。仮に日本で走つたとしても結果を残せなかつたのではどう印象はある。

同じ11月からもうひとつ、こちらは一転してローカルなコース。「そんな馬いたなー」と記憶の方もいらっしゃるかもしね。11月11日付けのサンスポから。

「額にくつきりとしたハート型の流星を持ち、デビュー前から話題を呼んでいたトレジャースマイル（牝2歳 岩手・村上昌幸厩舎）が10日、水沢競馬場でついにペールを脱いだ。結果は5着だったが、今年度赤字なら廃止の可能性もある岩手競馬はハートマーク入りの服などを着用した入場者は無料にするなど、人気回復の切り札として期待を寄せる。あのアイドルホース・ハルウララの再来となるか」

筆者は当時岩手競馬関係の仕事をしていたので記憶しているが、當時はとにかく経営状況がドン底。藁をもつかむという感じで、ハルウララのようなアイドルホースを作りたいというのが組合の願いだった。地元メディアでも取り上げられた

ためこの日の入場人員や売り上げは好調だったが、馬の成績が伴わなかつたこともあり、正直話題性も尻すぼみであった。同馬は生涯40戦して1勝。ただ、その後震災というさらにビンチがありつつ、JRAの助けも借りて岩手競馬が立ち直ったことは喜ばしいことである。

続いていまから20年前、平成9年の11月。まずは川崎競馬場で起きた物騒な話から。11月28日付のスポーツニチから引用する。

「レーザー光線らしきもので競走馬の妨害を画策するかのような事件が、26日の川崎競馬場で起きた。最終11レース(12頭立て)のレース前、パドックで1番人気に支持されていたミナミノウルフ号の顔面に赤い点がちらついているのを受けた川崎競馬場は27日の開催は特別厳戒態勢で臨んだ。悪質ないたずらか、馬券的中を狙つた

# ムカシの競馬を読む



須田鷹雄 すだたかお  
1970年東京生まれ。競馬ライター。サラブレーダーなど各種媒体に寄稿中。

不正行為か、事実確認が急がれる」  
結局犯人は判明しなかつたものと思われるが、いま調べてみるとこの事件は「レーザー・ポインター業界」では有名なようだ。同じ年にプロ野球やサッカー日本代表戦でもイタズラと思われる利用があり、翌年以降規制の動きも広がった。平成11年には1MW以上の出力をもつてレーザー・ポインターは市場から排除されることにもなっている。

記事によるミニマニ・ウルフ号はもともと気性の荒いところがあつたそうだが、この「攻撃」による影響を後日まで引きずることはなかつたようで、この次走となる地元船橋でのレースでは、2着を2秒27ちぎる圧勝を見せている。南関東A級まで出世し、一時は中央にも転入した。

同じく平成9年から、そんなことありうるか？ という出来事。  
11月29日付のスポーツニチから引用する。

連単(このレースでは796倍)などの馬券を購入した。計算システムの故障が原因だった。インチキ馬券は競馬場側の「レース終了後の馬券は決して払い戻さない」との主張が通つてすべてハズレ馬券となつた。詳しい状況が分からぬのだが、有人窓口で終わつたレースの馬券を頼めるわけがない。当時はアメリカでタッチパネル式のセルフペッティングターミナルが普及しはじめた時期であり、その端末とホストの間になんらかの不具合があつたのではと推測できる。発券はできるが、券番号と票数のデータが合算側に無いので支払いを拒む根拠があつたのではないかと考えられる。

ちよつと違う形ではあるが、日本でもある競馬場が、発売開始直後にはオフライン(ホストと発券機が繋がつていなき状態)で馬券を売つてしまふという事故が数年前にあつた。このときは幸い、「売れた馬券」がすべてハズレたために客とのトラブルにはならなかつた模様である。

「ジャパンカップの目玉商品、トリプティックが売りに出されている。馬主のアラン・クロール氏が、先頃世界中をゆるがせた株の大暴落の影響を受け、約300頭の所有馬すべてを手放さなければならぬ事態に追い込まれたもの（後略）」

記事中にある株の大暴落とは、いわゆるブラックマンデーのこと。10月14日からはじまつた株式下落が19日の月曜日に劇的な局面を向かえ、ダウ平均株価が22.6%下げた。トリプティックの馬主がどの国でどのような運用をしていたか分からぬが、この年は香港のハンセン指数が45%以上下げるなどしており、どの国で運用粉は浴びただろう。

トリプティックも後にはトレードされるのだが、ジャパンカップには予

「26日（日本時間27日）ケンタッキー州チャーチルダウンズの場外発売をしていたニューヨークの投票所で、第7レース終了後も当該レースの馬券が売られるという珍事があった」

ちなみにオフライヽで馬券を売る  
と券面が少しバグつた感じになる  
らしく、筆者はそれをコレクション  
として欲しいと思ったのだが、入手  
には至らなかつた。

最後に30年前、昭和62年の11  
月。現在の天皇陛下ご夫妻、当時  
の皇太子殿下ご夫妻が天皇賞秋

通じて元の服色で出走した。前年  
に続く2回目の来日、引用した記  
事の数日後には富士S(当時指定  
オーバン)を圧勝してジャパンカッ  
プでは単勝1.8倍の1番人気で  
押されたが、直線で詰まって4着。  
前年(11着)の雪辱は果たせなかつ  
た。